

〔曲 名〕 Nymphes et Faunes

ニンフと牧神

〔曲 種〕 Dance Champetre

〔作曲者〕 Vincenzo Billi

ヴィンセンツォ ビルリ

〔整 曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

ニンフは若くて美しい擬人化された女神で、湖や泉の辺りで踊るのを好む。

Faune は Pan のことで牧神、上半身は人間で、有髯（ぜん）、両角を備え、下半身は山羊。

真昼は多くは樹陰で眠るが、山や森を自由に駆けめぐり、茂みに身を隠して、ニンフを待ち伏せるという。

柔らかい陽光のもと、明快なリズムにのってニンフが舞い出る。

彼女らは二人三人と誘い出されて、野から小川へ森へと舞い続ける。

午睡の夢を破られた牧神は葦笛を吹きつゝ現れ、踊りの仲間に入る。

戯れる牧神、胡蝶のように身を翻すニンフ、やがて迫りくる夕闇をのがれて彼女らは何処ともなく消え去る。と云うのが本曲に描かれた叙景であろうか。

本曲は私が曾（か）って出した「イタリアマンドリン百曲選」第1集に収めたもので、A.モルラッキの編曲したものに少し手を加えたものであるが、

以来一度も上演されていないので訝（いぶか）り、敢えて再度登場させて喚起を呼びたい。

奏法上のことでは、リズムは出来るだけ余韻の残らないようにスタカートで運ぶことと、二長調ffのギターパートの和弦は鋭い拇指だけの弾弦でありたい。

猶、和弦の中に含む開放弦の消音の処理を曖昧にしないことである。

作者は1869年4月4日、イタリア・ラヴァンナのブリジゲーラ（ボローニアの東、アドリア海側）に生まれ、

1938年12月20日、フィレンツェに逝いた指揮者で作曲家。

父ジュゼッペ（ウルバニア並びにペザロ音楽学校の指揮者で1903年に亡くなっている）に学び、後ペザロの音楽学校を卒業。

仏、西、和、英各国で指揮者として活躍し、沢山の作品がある。

多数の門下生を教育し、かのマリオ・バッチもその一人である。

オペレッタ、管弦楽、吹奏楽、ピアノ曲、マンドリン合奏曲等夥（おびただ）しい数にのぼるが、マンドリンでは教則本を出版し、

小編成の佳曲が多く、一般著名歌劇の編曲も頗（すこぶ）る多い。

1901年ボローニヤで創刊された Vita Mandolinistica 誌の主幹を努めたこともある。

1993年 2月 発行

マンドリン合奏曲集 3 集（JMU版 パート譜付）より